

小学生版

うち

— 家 読 —

とく

子どもたちが選んだ春日部うちどく本リスト

## < はじめに >

この冊子は、家庭の読書習慣をさらに充実するための「家読（うちどく）」※）ブックリストです。

ブックリストの作成にあたっては、春日部市の小・中学校の児童生徒にアンケート調査を行い、「家族や友だちに読んでもらいたい本」を推薦してもらいました。ブックリストで紹介している本には、子どもたちからのおすすめコメントも掲載しています。

「家読」には、決まったルールはありません。「家族が同じ時間に読書をする」「家族の誰かに本を読んでもらったり、読んであげる」「家族どうして本の感想を言い合う」など、家族の形態や生活時間に合わせて読書を楽しむことで、本を通して家族の絆を深めるものです。

このブックリストが、楽しい本との出会いと家族の大切な思い出作りの道しるべとなるように願っています。

家読（うちどく）※）…「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味し、家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的にした読書運動

（凡例）

●掲載順は以下のとおりです

・絵本→画家名順 物語→作者名順 その他は図書館での分類順

●各事項について

書名

著者名・出版社

ジャンル

1 『〇〇〇〇』 〇〇/作 〇〇 絵本

本のあらすじ、内容

本の表紙画像

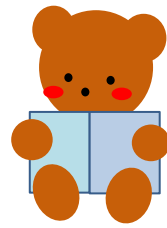
おもしろかった！

子どもたち、司書職員からのおすすめコメントです

子どもたちのコメント

司書職員のコメント

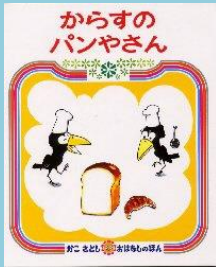
# うちどく <1・2ねん>



1

『からすのパンやさん』 かこ さとし/作 偕成社

えほん



からすのパンやさんには、よんわのげんきなこどもたちがいます。びんぼうだけれど、はたらきもののパンやさんは、かぞくみんなで、とつてもすてきな、かわったかたちのパンを、たくさんつくりました。すると、おおぜいのからすたちがパンをかいにきて、おおさわぎになります。



パンのしゅるいが100こぐらいあることがすごい

2

『いっしょだよ』 小寺 卓矢/写真・文 アリス館

えほん



もりのなかの、うまれたばかりのきのめは、いくつかがたまっていっしょにいる。おはなもはっぱも、きのこも、いくつかでいっしょにいる。きとおひさま、はなとむしもいっしょにいる。おおきいの、ちいさいの、ちがうものどうし、もりはいろいろないっしょでいっぱいだよ。

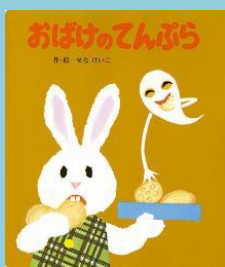


きのこがいっぱいあるのがおもしろかったです

3

『おばけのてんぷら』 せな けいこ/作・絵 ポプラ社

えほん



たべるのがだいすきなうさこは、てんぷらをあげることにしました。すると、おばけがいいにおいにつられてやってきて、こっそりてんぷらをつまみぐい。ところが、おばけはあぶらですべて、てんぷらのころものなかへ、ぽちゃーんとおちてしまいます！



おばけがかってにうさぎの作ったてんぷらをたべたのがおもしろい

めがねのてんぷらをあげちゃったのがおもしろい

4

『ぴかくんめをまわす』 長 新太/絵 松居 直/作 福音館書店

えほん



しんごうきのぴかくんは、ひるもよるもはたらいています。あお・き・あか―すすめ・まで・とまれ、のしんごうをよくまもれば、たくさんのひともくるまも、さっさとすすめます。ところが、ぴかくんが、いそがしすぎてめをまわしてしまったので、こうさてんはだいこんらんしてしまいます！



ぴかくんのあかいろがすきです

5 『せかいいちおいしいスープ』 マーシャ・ブラウン/文・絵 こみや ゆう/訳 岩波書店 えほん



おなかをすかせた三にんのへいたいが、村にたちよることになりました。ところが村びとはたべものをかくして、わけてくれません。そこで、へいたいたちは、いまから、石のスープをつくといいだします。すると、村びとたちはものめずらしそうにあつまってきました。



ちえをしぼっておいしいスープができあがるのがおもしろいです

6 『ふらいばんじいさん』 神沢 利子/作 あかね書房 ものがたり



ふらいばんじいさんは、たまごをやくのがだいすきです。でも、おくさんが、あたらしいめだまやきなべをかってきたので、たまごがやけなくなりました。じいさんは、じぶんができることをさがすために、そとのせかいにたびにでることにします。



ふらいばんじいさんがたびをするところがすきで

7 『こまったさんのスパゲティ』 寺村 輝夫/作 あかね書房 ものがたり



「こまった」が口ぐせのこまったさんが、ミートソーススパゲティをつくっていました。ソースをにこみながらアフリカのざっしをみていたら、とつぜんアフリカの大そうげんにいたのです！ こまったさんは、ぞうやライオンたちにスパゲティをつくることになってしまいました。



りょうりの作りかたがかいてあるのがすき

8 『おいしいのぼうけん』 古田 足日 田畑 精一/作 童心社 ものがたり



さくらほいくえんには、こわいものがふたつあります。おいしいと、ねずみばあさんです。あるひ、さとしとあきは、ミニカーのとりあいをして、せんせいにおいしいにいれられました。すると、まっくらなおいしいに、ねずみばあさんがあらわれたのです。

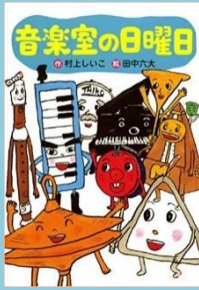


しゅじんこうがねずみばあさんからにげてだいぼうけんをしてるのがす

9

おんがくしつ  
『音楽室の日曜日』 村上 しいこ/作 講談社

ものがたり



にちようび  
日曜日の学校の音楽室では、楽器たちがはなしあいをしています。カスタネットが、「みんなでがっしょうをしたい」といいますが、けんぱんハーモニカははんたいします。何を歌うのか、ピアノはだれがひくのかなど、もんだいだらけで、なかなか練習ができません。



教室にあるどうぐがいろいろなところにでかける所がすきです

10

『いのちのカプセルまゆ』 新開 孝/写真・文 ポプラ社

むし



ガのなかまのよう虫は、糸をはいてまゆを作ります。ウスタビガのまゆは、つぼのような形でみどり色。イラガのまゆは白と茶色。よう虫は、まゆの中でさなぎにへんしん。さなぎからせい虫になると、まゆから出てきてたまごを生み、新しいよう虫がそだっていきます。



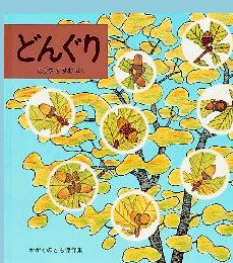
ようちゅうをうみだしてそだてることがす

むしがでてくるのがおもしろかつ

11

『どんぐり』 こうや すすむ/作 福音館書店

しょくぶつ・きのみ



あきになり、みずならのきにどんぐりがたくさんになりました。やがて、どんぐりはきのねもとにおちます。それをりすたちが、つちのなかにたくわえます。うめられたどんぐりからめがでて、また、みずならになるのです。いろいろなどんぐりのかたちがしょうかいされています。



いろいろなかたちがあるのがきれい

12

『はなのあなのはなし』 やぎゅう げんいちろう/作 福音館書店

からだ



はなのあなは、かたちや大きさがいろいろだ。はなのあなには、いきをするだいなやくめがある。はながつまると、においがわからなくなったり、はなすことばがはっきりしなくなる。はなのあなのやくわりをすることができず木



はなちがでるばめんがすきです

# うちどく <3・4年>



## 1 『にちよういち』 西村 繁男/作 童心社

絵本



しこく こうちし には、日曜日になると、並木道に「にちよういち」とよばれるいちがたちます。いちには、やさいやくだもの、おやつにおもちゃなどいろいろなみせがならびます。たくさんの人がやってきて、お店の人たちとおしゃべりをしながら買いものをしています。



いろんな店や人がおもしろいことをやっているのがいい

## 2 『うさぎのくれたバレエシューズ』 南塚 直子/絵 安房 直子/文 小峰書店

絵本



女の子は、バレエきょうしつにかよいはじめて5年もたつのに、おどりが上手になりません。月や星、遠い山に「おどりがじょうずになりますように」と何度もおねがいでいると、ある朝、一足のバレエシューズとカードがはいったふしぎなこづつみがとどきます。



うさぎがバレリーナのくつを作っていて、それがほんとうにあったらいいなというそうぞうがどんどんわいてくるのがいいと思いました

## 3 『おおきな きが ほしい』 村上 勉/絵 佐藤 さとる/文 偕成社

絵本



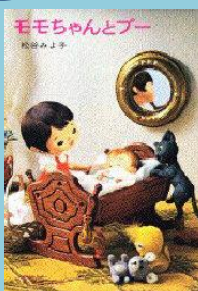
かおるは、おおきな木がほしいとおもっています。うんとふとい木に、はしごをつけてのぼると、ほらあながあります。えだのわかれたところには、こやをつくりまします。もっとうえには、りすやとりもいえをつくらまします。とおくの山がみえる、みはらしだいもつくるのです。



おおきな木におうちみたいなひみつきちがあつてすき

## 4 『モモちゃんとプー』 松谷 みよ子/作 講談社

物語



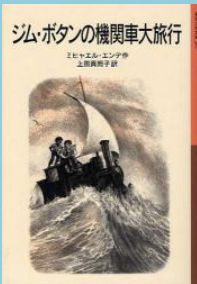
モモちゃんは、黒ねこのプーと赤ちゃんのとときからなかよしです。コウちゃんという友だちもできました。ところがプーは、モモちゃんがコウちゃんとはばかりなかよくしているのでおもしろくありません。ともだちがほしくなつたプーは、水たまりのふちにてがみをかくことにしました。



お話がいつまいて、モモちゃんとプーのせいしょうがわかりやすくみれ

5

『ジム・ボタンの機関車大旅行』 ミヒャエル・エンデ/作 上田 真而子/訳 岩波書店 物語



小さな島国フクラム国にとどいた小包の中に入っていたのはなんと赤んぼう。ジム・ボタンと名づけられたその男の子は、ナーニおばさんのもとので元気に育ちました。あるとき、親友の機関士ルーカスと機関車のエマがフクラム国を出ていくことを知ったジムは、ふたりといっしょに旅にでることにします。



ジムがたびにでるのがおもしろい

6

『カメレオンのレオン つぎつぎとへんなこと』 岡田 淳/作 偕成社 物語



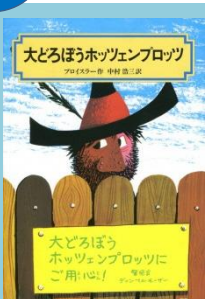
桜葉小学校ではへんなことがおこっていた。ろうかにペンギンがいたり、校長先生がふたりになったり。そして街でもへんなことがおこりはじめたころ、変身ができる小さな男の人が小学校にあらわれた。男の人はレオンといい、ある目的があってあらわれたという。



学校に動物や虫がきたり、校長先生とおなじにばけているのがおもしろい

7

『大どろぼうホツェンプロッツ』 プロイスラー/作 中村 浩三/訳 偕成社 物語



おばあさんが誕生日のおいおいにもらったコーヒーひきがぬすまれてしまいました。はんにんは大どろぼうホツェンプロッツです。おばあさんの孫カスパールと、友だちのゼッペルは、コーヒーひきをとるかえそうと作戦をたてます。



ホツェンプロッツをつかまえるためにさまざまなぼうけんをくりひろげるところがおもしろい

8

『最後のオオカミ』 マイケル・モーパーゴ/作 はら るい/訳 文研出版 物語



十八世紀のスコットランド。戦争で両親をなくしたロビーは、敵のイギリス軍からにげるとちゅうで、絶滅したはずのオオカミの子どもとであった。オオカミを犬にみせかけ、いっしょに行動することにしたロビー。ふたりは心がつうじあう大切な友だちになるが、やがてわかれのときがくる。



おおかみとののであい、わかれの場面が一番きにいました

人とオオカミがいっしょに

赤ちゃんおおかみがかわいい

9

『季節のごちそうハチごはん』 横塚 眞己人/写真・文 ほるぷ出版

食文化



岐阜県には、「へボ」とよばれるハチを食べる地方があります。地面の中にある巣を、巣箱で育てて大きくしてから、ハチの子を取り出して甘露煮にして食べます。へボは地域の人たちの楽しみでもあり、生活の一部でもあるのです。



女の子がへボを食べていたのが  
おいしそうでしたらなくなりました

いっしょうけんめいハチをつかまえ

10

『すごいね！みんなの通学路』

ローズマリー・マカーニー/文

西田 桂子/訳 西村書店

生活



世界には、学校に通う道のりが大変な子どもがたくさんいます。川を歩いてわたったり、山をこえたり、高いがけをのぼったり、自分の机を持って通う子どももいます。どんなに通うのが大変でも、みんな学校が大好きなのです。



いろんなつうがくろがあるんだ  
とってすきになりました

学校に行く道がとおくてもがっこうにがんばって

11

『月のかがく』 えびな みつる/絵と文 中西 昭雄/写真 旬報社

月



月は、地球のまわりをまわる衛星だ。月の表面には、いん石がしょうとつしたあとのクレーターのほか、山脈や海もある。月はどうして形が変わるのか、うさぎがすんでいるといわれるのはなぜか、皆既月食はどのようにおこるのか。月のふしぎがわかる本。



月のもようやれきしがわかるところがすきです

12

『これがほんとの大きさ！』 スティーブ・ジェンキンス/作

動物

佐藤 見果夢/訳 評論社



動物の世界にはおどろくほど大きいものや小さいものがある。体長4mのアラスカヒグマの頭や全長18mのダイオウイカの目玉はどれくらい大きいのか？ 世界一小さい魚はたった8mm？ 実物の大きさを体験してみよう。



本とうの大きさとってこんな大きさをんだとびっくりす



# うちどく <5・6年>



## 1 『耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ』



ジェズ・ツヤ/絵 ナンシー・チャーニン/文 斉藤 洋/訳 光村教育図書 絵本

耳の聞こえないウィリアムは、努力が実って野球選手になりました。ところがしんぼん審判の音がきこえず、差別も受けてつらい思いもしばしば。でもウィリアムはあきらめず、ストライクとボールをジェスチャーで表すサインを考え出します。



耳が聞こえないからサインを作ったのがすごいと思った

## 2 『まっしょうめん!』 あさだ りん/作 偕成社

物語



成美は、海外赴任中の父親に頼まれ、興味のない剣道教室に行くことに。つらい姿勢や慣れない練習、成美にきつくあたる男の子…。うんざりする成美だったが、剣道バカの監督とその娘茜との出会いや、かつての友人との剣道大会での再会を通して、剣道の魅力に気づきはじめる。



主人公の女の子が剣道にまっしょうめんに入りこんでいくのが好きです

## 3 『ぼくとテスの秘密の七日間』 アンナ・ウォルツ/作 野坂 悦子/訳 フレーベル館 物語



サミュエルが観光地テッセル島で出会ったのは、ちょっと風変わりな女の子テス。ママとふたりで暮らすテスは、顔も知らないパパに会いたがっているが、手がかりは名前だけだという。テスは、ママに秘密でパパに会うための作戦を立て、サミュエルも協力することになったが…。



2人ががんばりサプライズをしようとするなど協力や努力があるところが好きです

## 4 『緋色の研究』 (シャーロック=ホームズ全集1) コナン=ドイル/作 各務 三郎/訳 偕成社 物語



戦争帰りの医師ワトスンが共同生活をするようになった男シャーロック・ホームズ。驚くほど鋭い観察眼と推理力、犯罪や化学の豊富な知識を持つ彼の職業は探偵である。ホームズがロンドン警視庁から協力依頼を受けた殺人事件の現場には、「復讐」の血文字が残されていた。シャーロック・ホームズ第一作目。



どんなことも証拠にして事件を解決するところがすごい

一つの謎を簡単にとかないで裏をよんだりしてとくところがおもしろいです

5

『<sup>まち</sup>都会のトム&ソーヤ』 はやみね かおる/作 講談社

物語



普通の中学生として過ごしているが、天才的なサバイバル技術を持つ内人<sup>ないと</sup>。ある夜、学校一の天才で竜王<sup>りゅうおう</sup>グループ後継者<sup>こうけいしや</sup>、創也<sup>そうや</sup>を見かけてあとをつけるが、創也は途中で消えてしまった。次の日学校で内人が問いただすと、創也は内人にかぎを渡し、自分が消えた場所をさがせという。

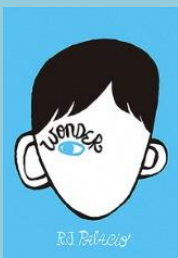


自分もその世界に入ったような楽しみを味わえるところが好き

6

『ワンダー』 R. J. パラシオ/作 中井 はるの/訳 ほるぷ出版

物語



オーガストは、生まれつきの障がいで、誰もが目をそらしてしまう外見を持つ男子。十歳になり、初めて学校に行くことになったが、クラスメイト達に意地悪<sup>いじわる</sup>されたり気味悪がられたり…。しかし、オーガストの勇気や明るさが次第<sup>しだい</sup>に周りの人たちを変えてゆく。



後味が悪くないところがいい

ふつうじゃない男の子がいじめをうけながらがんばって生活をしているところが好き

7

『銀河鉄道の夜』 宮沢 賢治/作 岩波書店

物語



漁から戻らないお父さんのことでからかわれたジョバンニ。ケンタウルス祭の夜、悲しい気持ちになって丘を駆け上がり、気がつくと銀河を走る小さな列車に乗っていました。ジョバンニは同じ列車にのっていた親友のカムパネルラとともに銀河の旅をします。



ジョバンニがいろいろなたびをするところがいい

8

『盲導犬クイールの一生』 石黒 謙吾/文 秋元 良平/写真 文藝春秋

盲導犬



カモメが羽を広げたような模様があるラブラドルレトリバーの子犬が生まれた。大人しくマイペースなオスの子犬は、やがて「クイール」という名を持つ盲導犬として訓練を積み、失明した男性のもとへ。クイールは男性の目となり、互いに信頼をよせるかけがえないパートナーとなる。



盲導犬が、目が見えない人たちにとってどれほど大切かがわかる

9

『冒険図鑑 野外で生活するために』 さとうち 藍/文 松岡 達英/絵 福音館書店 アウトドア

野外で歩く、食べる、寝るためにはどうしたらよいか。くつの選び方、テントのはりかた、かまどの作り方や地図のよみかたは？ 道に迷ったときやけがをしたとき、危険にでくわしたときの対応は？ くわしい絵と説明で野外生活を助けてくれる一冊。



山とかにいて、なにかあったときにつかえる！

10

『転んでも、大丈夫 ぼくが義足を作る理由』 臼井 二美男/著 ポプラ社 障がい、仕事

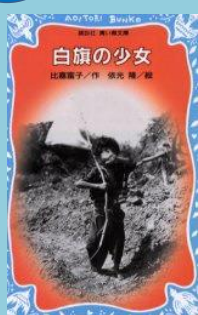
臼井さんは、<sup>ぎそく</sup>義足を作る<sup>ぎしろうぐし</sup>義肢装具士です。日本で初めて、走れる義足を作り、パラリンピック選手の支えにもなりました。足を失った人にスポーツをする喜びを伝える義足には、障がいがあっても、夢や目標をあきらめず<sup>ちようせん</sup>挑戦してほしいという、臼井さんの熱い思いがこめられています。



義手や義足の人の気持ちがわかります

11

『白旗の少女』 比嘉 富子/作 講談社

戦争

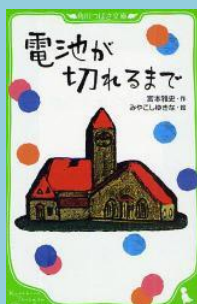
太平洋戦争の<sup>まつき</sup>末期、沖縄の戦場で一人の少女が白旗を持って<sup>しらはた</sup>投降する<sup>とうこう</sup>写真がとられました。その少女、<sup>ひがとみこ</sup>比嘉富子さんは、たった7歳で家族からはぐれたにも関わらず、命をとりとめたのです。幼い比嘉さんはどのように生きのび、そしてなぜ白旗を持っていたのでしょうか。四十三年後にあかされた少女の戦争体験。



少女が戦場で白旗をもってきせきてきに生き残っていて、泣きそうになりました

12

『電池が切れるまで』 宮本 雅史/作 みやこしゆきな/カバー絵 石井 勉/本文絵

KADOKAWA (角川つばさ文庫) 病気

こども病院に入院する子どもたちは、つらい<sup>ちりょう</sup>治療をがまんしてせいっぱい生きています。11歳のゆきなちゃんは、<sup>いんないがつきゅう</sup>院内学級で「命」という詩を書いた四か月後に、がんでなくなりました。病気とたたかいながら、家族との時間を大切に<sup>あきらめず</sup>して明るく生きる子どもたちのほんとうの話。



主人公のゆきなちゃんは、仲良しの子が空にとびたってしまうって、でも家族にささえられながらがんばって病気とたたかうところがいい